



育成会だより

NO. 14 2011年9月24日
発行：ボーイスカウト東京港第1団

夏季合同キャンプに寄せて

2011年度の夏季団合同キャンプの共通テーマとして〈ともに進もう〉が決まりました。

〈ともに進もう〉の言葉からは色々なことが考えられます。スカウトが仲間となかよくし、お互いに協力してスカウト活動をともに進めていこうということであり、同時にスカウトがリーダーと共に同じ目標に向かって進んでいこうということでもあります。また団は、家族といわれているように各隊がキャンプを通してよく知り合って一緒に進んでいこうということでもあります。

また本年度は、〈2011年度活動計画にあたって〉で示されたように、3月に起きた東日本大震災のこと、とくに同年代の子ども達のことを覚えて生活することがとても大事です。“一人はみんなのため、みんなは一人のため”を合言葉にスカウトやリーダー一人ひとりが、自分にできることを考え、そして生活やスカウト活動の中で行動して行くことが大切です。

一番大事なことは、大震災で被災された方々を「忘れないこと」であります。今でもこれまで住んでいた所を離れて生活し、また子ども遠は違った学校へ遠くに通学するなど不自由でつらい生活をしている人のことを忘れないようにしましょう。

キャンプでも〈ともに進もう〉をしっかりと考えて行動し、よいキャンプにしましょう。

2011年7月16日 団委員長 杉原 正

団行事のお知らせ

- 10月8日(土)～9日(日) みなと区民まつり 芝公園
港第1団のブースがございます。是非、お立ち寄り下さい。
- 10月22日(土) 教会バザー
- 12月10日(土) GS・BS 合同クリスマス礼拝

《団合同キャンプ ビーバー隊》

◎キャンプの感想文 ビーバースカウト 山菅 祐一郎

キャンプファイヤーのぜんぶがたのしかった。
おしょくじもおいしいからすき。



◎キャンプの感想文 ビーバースカウト 坂上 誠

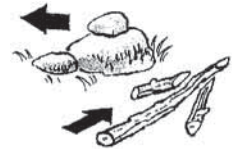
8月12日金よう日出ぱつしました。キャンプ場でごはんを食べました。恵みシャレーでおとまりしました。心がさみしくて、夕食はあんまりたべられませんでした。そのあとゲーム大会をしました。ドッチボールがたのしかったです。おわたたらはをみがいてねました。きもちがいいおふとんでした。

土よう日2日目 ぐっすりねて4時におきたら大石副長がもうなにか？していました。朝ごはんはきのうよりいっぱい食べました。ハイキングをしました。およそ5キロぐらいあるきました。ぼくがあるいているとき、ぼくはつしてできた石を見つけました。山をのぼっているとき、くまの出るかんばんを見つけました。のぼって下ってのぼって下っていのちがけでした。よるキャンプファイヤーをして、ねました。

日よう日3日目 5時におきました。朝ごはんはジャムパンと、紅茶をのんで食べておいしかったです。恵みシャレーにもっととまりたかったです。かえりのバスはます山たい長と、となりのせきでした。おみやげをかって、ついたら母がまっていました。

◎かるいざわのたんキャンプ ビーバースカウト 西石垣 光輝

ぼくは、ビーバーのなかまと、かるいざわにキャンプにいきました。
キャンプは、さんかいめだけど、ビーバーでは、はじめてだった。



さいしょ、キャンプじょうでボーイたいのおにいさんたちが、ひをつけて、でかいなべでおにくをやいて、スープとパンとフルーツをたべた。そのあとファスターのはなしがあつて、たかいしんごうとうにのぼったけど、こうしょきょうふしょうで、さいごのだんにあしがとどかなかつた。あと、もりのなかをあるいたり、山にのぼるハイキングをした。だまつたほうはやくあるけるから、がんばつた。よる、ねられなくて、くらくてこわいから、もうキャンプはいきたくない。きんにくつうになった。

◎キャンプの思い出 ビーバースカウト 濱田 千太郎

ぼくは、はじめてビーバー隊のみんなとキャンプに行けることを、わくわくしながらたのしみにまっています。いちばんたのしかったのは、みんなといっしょにおふろであそんだことです。ちょっとしかられたけど、みんなと入るおふろは、おもしろいです。つらかつたのは、ハイキングの帰り道です。あまりにもつかれて、みんなとはなしもできないくらいでした。だけど、だれもつかれて歩きたくないなんて言つてなかつたから、ぼくも、がんばろうと思つた。そして、キャンプファイヤーの出しものをビーバー隊のみんなとれんしゅうしてよるこんでもらつたことがよかつたです。ぼくは、またみんなとキャンプに行きたいです。

◎楽しかつたたんキャンプ ビーバースカウト 矢野 宏知

いく時はみじかいと思つたけど、ながかつたです。ついた時、しんごうとうがすごかつたです。のぼらせてもらえて、楽しかつたです。ぼくたちがとまる場所は、ぼろぼろだと思つたけど、じっさいに見たらきれいでした。ついたところからへやまで、とおかつたです。おふろは山みたいで、つるつるでした。ねむる時は、ぐっすりねむれました。

ハイキングはたくさんあるいてつかれました。カブたいとおなじだけあるけてうれしかつたです。キャンプファイヤーは、火がとんできたのがすごかつたです。きんちょうしたけれど、ちゃんと歌えました。

帰りにおみやげをかうことはしりませんでした。パパと、ともくんと自分におみやげがかえてよかつたです。いえに帰つたら、なつかしかつたです。



《団合同キャンプ カブスカウト隊》

◎うさぎスカウト 申 隆一

初めてのお泊りキャンプだったので、さいしょは少しきんちょうしましたが、帰る時にはきんちょうがとけ、たいへん楽しいキャンプでした。しょにちにボーイのひとたちが作ってくれたウェルカム・ランチがおいしかったです。押川先生のパウロの話がとてもためになりました。

うすい峠へのハイキングはちょっときびしかったです。ちょうじょうに立った時にすごくたっせいかんをかんじて良かったです。さいごに、キャンプがどれだけきびしいのかこんかいのキャンプで良くわかりました。こんどは、いっしょうけんめいれんしゅうして、またカブのみんなとキャンプに行きたいと思っています。

◎しかスカウト 北 啓矢

軽井沢の恵みシャレーというところへキャンプに行きました。

ボーイ隊の作った信号塔に登って、景色がよかったです。夜はゲーム大会をしました。けん玉リレーをしたり、ドッジボールをしたりして楽しかったです。

次の日は、ハイキングをしてつかれました。夜のキャンプファイヤーは、自分達のげきもうまくいったし、他の隊のおもしろかったです。最後の日は、カブブックが全部終わってうれしかったです。

キャンプでは初めての組長だったので、大変だったけどがんばりました。

◎しかスカウト 木村 亮介

僕は初日に直接軽井沢のキャンプ場に行きました。みんなのバスが着くまで、カブスカウトは僕だけで心細く思っていたのですが、ボーイスカウトの先輩達が優しく声をかけてくれてとても嬉しかったです。その後、みんなの乗ったバスが到着し、ボーイスカウトの先輩方が作って下さったお昼ご飯をいただきました。外で食べるお昼ご飯はとても美味しかったです。そして、信号塔にもあがらせていただきました。高くて怖かったけど、上にあがる事ができて嬉しかったです。ロープと木だけで作ったと聞いて、とても驚きました。僕もボーイスカウトになったら作ってみたいと思いました。

次の日はハイキングに行きました。とても暑くて疲れましたが、みんなと楽しくおしゃべりしながら歩けたので、楽しかったです。群馬県と長野県の境目で写真を撮った時は、ヤッターと思いました。また、ここまで来たいなと思いました。坂が多くてとても疲れましたが、みんなと一緒に頑張れば何でもできるんだなと思い、本当に感動しました。

キャンプの時、僕は2組でした。最初は組長も次長も同じ年で大丈夫かと心配に思っていたのですが、次長が組長にアドバイスをしたりしてだんだん2組もまとまっていきました。キャンプは集団生活で我慢しなくてはいけない事もたくさんありましたが、みんな協力する楽しさもいつも以上に感じる事ができたのでよかったです。また、みんなとキャンプに行きたいと思いました。

◎しかスカウト 鈴木 隆斗

夏のキャンプのハイキングが一番の思い出です。その中でも、いんしょうに残っているのは、「みはらし台」のさんちょうで食べた釜飯です。あたたかい釜飯でした。団委員長達のおかげでした。ありがとうございました。おいしかったです。

◎しかスカウト 鈴木 智之 (団合同キャンプ カブスカウト隊 つづき)

キャンプ中に一番印象的だったのが群馬県と長野県の県境の上に立ったことです。理由は、空気もおおいかったし、お弁当とかもおいしかったです。しかも夜は、夜のゲーム大会のドッチボールで、一回投げたら三人に同時に当たったのでびっくりしました。でもとても残念だなと思ったのはスカウトとのけんかでした。これからは、けんかはしない方がいいと思います。

◎しかスカウト 戸部 公晴

ぼくは、キャンプ一日目に教会からバスに乗りボーイの人たちがいる場所に行き、昼ご飯を食べました。昼ご飯は焼き肉で、とてもおいしくいっぱい食べてバスに乗り、恵みシャレーに行き一組と二組の部屋に分かれました。二日目はカブザックにかえて外に行きならんでハイキングに行きました。とちゅうに山があり山を登りました。山のとちゅうに川が流れていてさわってみたら冷たくて気持ちよかったです。頂上についた時ご飯をたべてご飯はかま飯でした。でも帰ろうとしたら、鼻血が止まらなくなり、車で恵みシャレーまで送ってもらって、なにかすごきんちょうして大変でした。

◎しかスカウト 増田 友紀

8月12日ぼくは、バスで軽井沢のキャンプ場に向かいました。ボーイのお兄さんが、ランチパーティーをひらいてくれておいしいお昼ごはんを食べました。丸太でできた高いとういのぼり写真を撮りました。夜は体育館でゲーム大会をしました。ビーバーとお母さんチームと戦って僕たちが勝ち良かったです。一番の思い出はハイキングです。3時間くらい、まがりかどの多い山道をのぼってつかれたけど楽しかったです。頂上でかまめしのお昼ごはんを食べました。とてもながめのいい場所でよかったです。長野県とぐんま県の県ざかいで写真を撮りました。キャンプファイヤーはボーイとビーバーと一緒にできてうれしかったです。みんなのスタンプも良かったです。僕たちもうまく行ってよかったです。最後の日はがんばってカブブックを終わらせました。ほっとしました。閉会式で団委員長が紙芝居を読んでくれました。広場にあった大きなツリーにのぼって、集合写真を撮りました。

教会に帰ってきてからチーフをとりかえました。金色のチーフリングをもらいとってもうれしかったです。団キャンプとても楽しかったです。

◎くまスカウト 井上 稀翔

ぼくにとって最後のキャンプですごく楽しかったです。思い出に残ったことが三つあります。一つ目は、ゲーム大会です。それぞれチームを組み、協力し合ってゲームが進められ、うれしかったです。二つ目は、山登りです。登っているときはいやだったけど、頂上について長野県と群馬県の間だったのです。すごくうれしかったです。長野県側では木がいっぱいあり、虫がいっぱいいました。群馬県側では景色がとてもよかったです。三つ目にキャンプファイヤーです。出し物と歌を歌うくらいしか無かったけど、すごく楽しかったです。伊坂りょうと君、と拓ちゃんと東吾は、やめなきやよかったのにとおもいます。あとピーちゃんもキャンプにすればよかったのにとおもいます。

《団合同キャンプ ボーイスカウト隊》

◎夏キャンプを終えて ボーイスカウト 片岡 世界

八月にボーイスカウトの夏キャンプで軽井沢に行きました。キャンプ場では、自分たちでテントを張り、一日に三回のご飯を作ったことは初めての経験でした。また、朝早くからサンドイッチの弁当を作り、山道をハイキングしたのは思い出として心に残っています。お風呂はキャンプをしている間一度だけ入れました。涼しかったので汗もあまりかかず過ごしやすかったです。

来年のキャンプまでに自分たちでできることを増やし、新しい仲間のお手本になりたいです。

夏季 団合同キャンプ



夏季 団合同キャンプ



◎キャンプ ボーイスカウト 加藤 瑤二郎

ぼくは、キャンプがボーイでは初めてでした。色々困ったこともありましたが、年上の人たちに教えてもらい、よくわかりました。今回のキャンプで色々学びました。玉ねぎの切り方などキャンプのきびしさを学びました。キャンプファイヤーでは出し物を考えられなくてとまどっていたとき、隊長に助けられました。次のキャンプではそういうことのないキャンプにしたいと思います。

◎隊キャンプの感想 ボーイスカウト 小島 雅也

ぼくは、このキャンプで楽しかったこと、つらかったこと、学んだことがたくさんあります。

1日目は設営をしました。テントの建て方がよくわかりました。2日目に信号塔を作りました。ロープ結びを教わりました。3日目、ビーバー隊とカブ隊を呼んで一緒にお昼を食べました。余ってしまったサラダなどを食べるのは少しつらかったです。そして4日目、ハイキングに行きました。班長からスカウトペースを教えてもらいました。キャンプ場に戻ってから久しぶりに温泉行きました。気持ちよかったです。夜、ビーバー隊・カブ隊といっしょにキャンプファイヤーをしました。どの隊の出しものもおもしろかったです。

ついに5日目、テントを片づけてから、荷物の整理をしてバスに乗って、教会に到着しました。つらいことがあったけれど、いろいろ学べたのでよかったです。これからも、もっといろいろなことを学びたいです。

◎キャンプの思い出 ボーイスカウト 小原 晋

キャンプで一番楽しかったのは、ハイキングです。ハイキングでは、二つのポイントに指令があり、その指令をクリアして野営場に帰るという仕組みになっています。指令というのは、倒木の長さを計るというものと、植物のスケッチをする、というものの二つでした。僕達は山の中を歩いて、ほぼ七キロメートルぐらいの道を歩きました。道のほとんどは、くだり坂だったのですが、雨で道がぬかるんでしまっていたことと、道がもともと歩きにくい形をしていたことで、とてもつかれた上に、とても時間がかかりました。その分、後で入った風呂が気持ちよかったです。キャンプでは色々なことがありましたが楽しかったです。様々なことに精一杯とりくんで失敗して学んでいきたいです。

◎隊キャンプ 2001 ボーイスカウト 川上 尚記

8月10日から14日まで長野県軽井沢レクの森で行われたボーイ隊のキャンプに参加した。

ボーイ隊に入って何度かキャンプには参加している。去年はジャンボリーにも参加したので、あまり不安は感じずに参加した。天気にも恵まれ、心配はないはずだったが、とても辛いキャンプだったことをうちあける。次長として初めてのキャンプ。今までは、指示によって自分のすべきことをするのが大切だった。グリーンバーになり、自分以外の人を動かすことは、とても大変だということがよくわかった。

指示によって動く場合は、ロープを素早く正しく結ぶことができたり、片付けをすましたりということが、自分でできればOKだった。でも、何人かの人に正しく、気持ちよくうごいてもらうのは、どう指示するのかを、ぼくは全然わかっていなかった。隊長やリーダー、新班長の岡部君と協力して、何とかキャンプが終了した時は、今までとは違う達成感があった。

「なかなかの指導力だったで賞」をいただいて、うれしかった。反面、グリーンバーとしての新たな自分が始まったな、と思った。このキャンプの経験をこれからの活動につなげていきたい。

◎団キャンプの感想 ボーイスカウト 矢野 智大

去年はジャンボリーだったので、今年はぼくにとって初めての港1団の団キャンプでした。

初日、東京駅には自分の予定通り着いたのですが、集合場所の銀の鈴の場所がわからず、その辺の人に聞いてまわって集合時間ギリギリ間に合いました。間に合ってよかったです。

一番面白かったのは、ハイキングです。行きはキャンプサイトから車に乗せてもらって、白糸の滝の先まで送ってもらいました。そこから遊歩道を歩きました。上班となおき君がテンポをとってくれたので、楽に歩けました。アイスリームコールもおもしろかったです。

キャンプファイヤーは大きい声でできたのでよかったです。ただいっしょに組んだ もんど君と、もっと上手に役割分担できたらよかったです。来年の団キャンプも楽しみです。

◎夏の合同キャンプを終えて ボーイスカウト 岡部 武文

今年のキャンプでいろいろな事を学びました。班長になって、初めてのキャンプ。一昨年前の夏キャンプよりも注意される回数がとても多かったのだが、注意される事でいやになったりする事が不思議となかった。

班長はキャンプや活動などで、指示を的確に下の子達にしなくてはならないのだが、何度注意をされても先に体が動いてしまい、下の子達への指示が遅れてしまったので下の子達は大変だったと思う。

嬉しく思った事が、ビーバー、カブに大人気だった信号塔だった。リーダー方にも誉められた。「お前達が作った信号塔は、俺達が教会で作った信号塔よりうまく出来て、しかも今日中に終わらないと思っていたのに、今日中に終わったのがすごいよ」とほめてもらえたのが本当に嬉しく思いました。

今年の夏キャンプは僕にとっても楽しく、たくさんの事を学んだキャンプでした。ありがとうございました。

◎合同キャンプ ボーイスカウト 加藤 準一郎

私はこのキャンプで大きく成長したと思います。今までは班の中に入って、みんなで一緒に行動をしていましたが、今回は班から抜けてリーダーとスカウトの間の役割をしました。同期の可知君が参加できなかったので、テントもサイトも一人で広々と使いました。仲間がいないとやはり寂しかったので、ほとんどをスカウトのサイトで共に過ごしました。上級班長の役割の中には、口や手を出してはいけないということがあり、難しい立場になったのであまり面白くありませんでした。その分、班全体を見渡す事が出来たので私にとっては客観的に物事をとらえる良い訓練になったと思います。それに、空いた時間で多くのスカウトとの雑談は班長の時には出来なかったので懐かしいような新鮮なものがありました。

私は、高校受験を抱えて参加しました。キャンプ前の1か月は学校の試験や模擬試験などで集会に参加できませんでした。私がキャンプに行けたのは後輩スカウトや隊のリーダー、家族の支えがあったからだと思います。私はこのキャンプに参加できてとても楽しく嬉しかったです。フォローして下さったリーダーの皆様、一緒に行ってくれたスカウト、有難うございました。9月にベンチャー隊に上進しますが、来年は受験も終わったところで、またボーイ隊にも参加させて頂きたいと思います。



《ダイアログ・イン・ザ・ダーク カブ隊》

◎うさぎスカウト 申 隆一

「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」は、とても暗く何も見えなかったので、手・声・つえ等を使ってゴールをめざしました。このように暗いところではカブの仲間ときょうどうで出口を見つけるひつようがあります。いままでいっしょにやってきた仲間となかよく最後まで行けたのが良かったとおもいます。また、とちゅうで真っ暗な中でのだお茶がとってもおいしかったです。ただ、いっしょに行ったデンリーダーのママが後で病気になったのがかわいそうでした。今度はお父さんといっしょに行くつもりです。

◎しかスカウト 北 啓矢 (ダイアログ・イン・ザ・ダーク つづき)

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、真っ暗で何も見えませんでした。たよりになるのは、つえと声でした。案内の人は、声で立っているかすわっているかわかって、すごいと思いました。真っ暗な中で、ボール遊びやだるまさんがころんだをしたり、水をさわったりしました。おかしも何かよくわからなかったけど、さわったらピーナッツだとわかりました。いろんなことをして楽しかったです。またこういう体験をしてみたいと思いました。

◎しかスカウト 鈴木 隆斗

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、暗い世界の中で目の見えない人の気持ちを体感するところでした。いろいろな体験の中で、コップにコーラを入れるのがありました。暗い中で、ビンの注ぎ口をみつけて、コップの口にあてて、ゆっくり、しんちょうに入れました。おいしかったです。

◎しかスカウト 鈴木 智之

ぼくは最初ダイアログ・イン・ザ・ダークとは何だろうと思い一瞬こう思いました。「怖いかなあ」と一瞬背筋が、震え上がりました。でも、話を聞くとだんだんほっとしました。ただ、入る時になったら怖くて気絶しそうでした。中に入るとお兄さんがいて説明されました。暗やみの中で遊ぶと聞いたのでぼくは、おもわず「むり、むり、むり」と言ってしまいました。最後に電気のありがたみがわかりました。

◎しかスカウト 戸部 公晴

ぼくはダイアログ・イン・ザ・ダークをやってみて思ったことは、目の見えない人もけっこう動けるんだと思いいい経験をしたなと思いました。とくに道をうしろの人に伝えるのがたいへんで、でも自分が歩くことには不自由がなくて楽でした。

◎しかスカウト 増田 友紀

最初は明るい部屋だったけど次に暗い部屋に移りさらに進むとほとんど見えなくなりました。声をたよりに進みました。つえが便利でした。僕はボール転がしが楽しかったです。水が気持ちよかったです。笹のにおいがしました。コーラもおいしかったです。おかしも食べました。今度はキャッチボールやサッカーもしたいです。また家族で行きたいです。今度は長いコースにも行きたいです。ちくわさんありがとうございました。またちくわさんと会いたいです

◎しかスカウト 木村 亮介

僕は、先日ダイアログインザダークに行ってきました。真っ暗闇だと聞いて、最初はいろいろなものにぶつかってしまうだろうと思い、怖いなと思っていました。でも、実際に入ってみると、触った感触や、杖を使う事により、思っていたよりも何があるかがわかりました。また、それぞれが自分の名前を言って、行動をみんなに知らせるようにしていました。それによって、みんなが何をしているのかを知る事ができ、暗闇の中での唯一の伝言手段は言葉を交わすことだと思いました。

最後にコカコーラをいただきました。もちろん真っ暗闇の中です。この頃になると大部慣れてきて、コカコーラが置かれた音で、自分の前に来たなとわかりました。暗闇の中で飲んだコカコーラはいつもと同じ味でした。ただ、どの位の量が残っているのかがわからず、なくなってからも飲もうとしてしまいました。

外に出たら、夕方になっていました。やっぱり光があるって素晴らしいなと思いました。でも、災害などに備えて、たまには真っ暗闇の中で自分の感性を研ぎ澄ます事も必要だと思いました。

今回はとても貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

◎くまスカウト 井上 稀翔 (ダイアログ・イン・ザ・ダーク つづき)

まっ黒やみの中いろいろなことをやりました。まっ黒でこわいことがいっぱいでした。ダイアログ・イン・ザ・ダークに行くちょっと前の日に、テレビで、ダイアログ・イン・ザ・ダークを放送していて、こわそうだなと思っていてまさかカブで体験するとは思わなかったし、テレビでやっていた所に行ってビックリしました。目の不自由な人はいつも、こういう生活をしていたんだなと思いました。



《ミクロネシア自然体験に参加して》

◎ボーイスカウト 岡部 武文

この夏休みに十日間のミクロネシア自然体験に参加した。

僕はミクロネシア諸島にある、マーシャル諸島と言う小さな島に行った。

マーシャル島はグアム島から飛行機で小さな島々を経由し約九時間ぐらいの所にある島です。飛行機から見た島々(環礁)は緑が多く、海は青くとてもきれいだった。マジロでは日本大使館に表敬訪問し、滞在中の注意や自然や文化の違いについて説明をうけた。又現地の子供達とも交流をし、バスケやサッカーなどをした。

言葉はマーシャル語が主なのでなかなか言葉が通じなかったので、身振り手振りで英語を入れながら交流をした。四日目にマーシャルの子供達と一緒に二泊三日のカロリン島キャンプ。キャンプと言ってもスカウトのキャンプとは違い、小さな小屋での生活。床にバスタオルを敷き、そこで寝る。水道がないため、水はとても貴重で、飲み水はリーダー達が持って行ってくれたので、その水を飲んだり、現地の方がヤシの実を割ってくれて飲んだ。すこしくせがあったが美味しかった。

現地の方々にはヤシがとても貴重でする所はなく、水のかわりに飲んだり、ご飯を炊き、ヤシの実を割ってその皮を石けんにし、葉はお皿やバッグなどにして生活をしていました。

海は本当に綺麗でシュノーケリングし泳いだ。魚も沢山泳いでいた。

カロリン島最終日に、お世話になった島の清掃をした。驚いたのは海の水は綺麗なのにゴミが多かった。ゴミは色々な国から流れて来ているようで、日本のゴミもあったので少しがっかりした。

この自然体験に参加して現地の方々はやさしさ、水の大切さなどを教えていただき、又このような機会をあたえて下さった皆様に、とても感謝しております。ありがとうございました。

《震災被災地支援活動報告》

◎ローバースカウト 小崎 信

私たちは教会の学生青年会として、西南支区の宮城県被災地ボランティアワークキャンプに参加してきました。参加するに当たっては、霊南坂教会ならびに霊南坂教会教会員の皆様には大変なご助力をいただきました。この場でもまず感謝の言葉を述べたいと思います。本当にありがとうございます。

さて、実際に私たちがしてきた活動ですが、私たちは宮城県の東松島というところへ行き、野蒜(のびる)海岸沿いの個人の住宅へお邪魔し、被災住宅の内装解体の支援活動をさせていただきました。私は、海外で学校建設に協力するなど、“造る”ボランティアの経験はありましたが、このように“破壊する”ボランティアというものは初めてで、大変心が痛みました。しかしこの内装解体は被災した住宅の住人である被災者が、もう一度その家で再スタートを切るためであると気づき、心を奮い立たせ、作業に臨みました。このワークキャンプでは、被災された“人”との直の交流があったため、私の価値観に大きな影響を与えました。この経験を生かし助け合うことの大切さを多くの子どもたちに伝え、より良い世界にしていきたいと私は考えています。

◎ローパスカウト 小林 資英 (震災被災地支援活動報告つづき)

私は都合により 8/29~8/31 の 3 日間しか参加することができませんでしたが、家の跡地に生えた雑草を抜く作業や、津波によって床が流されてしまった家の床板貼りなどをお手伝いさせていただきました。被災から半年経ち、幾分か落ち着いてきただろう、と向かう前は思っておりましたが、実際に訪れてみるとまだまだ復興の目処は立っておらず、愕然としました。道路標識が折れて倒れたままになっていたり、道路のタイルがところどころはがれていたり、そこにあったのは私の知っている日常の風景ではありませんでした。我々にとって非日常だと思えるような状況が被災地の方々の日常であることを実感し、これからも継続的に支援を続けていく必要があるとあらためて思いました。



《第 2 2 回世界ジャンボリー参加「思い・想い・念い」》

◎ビーバー隊 隊長 増山 孝子

第 22 回世界ジャンボリー (22WSJ) は 2011 年 7 月 27 日 (水) から 8 月 7 日 (日) までの 12 日間スウェーデンのリンカビーにおいて、正加盟 161 の国と地域から約 40,000 人が参加し開催されました。

日本派遣団はスカウト 792 名、指導者 88 名、その他 88 名が参加をいたしました。デンマークのコペンハーゲン (カストラップ) 空港からバスで移動すること約 2 時間、スウェーデン南部にあるクリスチヤンスタードの街は、デンマーク王クリスチャン 4 世によって 1614 年創立されましたが、1658 年頃からスウェーデンの一部になったそうです。

会場は、以前軍の演習場で大砲練習場でもあり、所々に大砲落下の穴がありました。自然に囲まれた松林と砂土で出来ていますが、一部ユネスコの生物圏保護区になっており、文化遺産のストーンウォール (石垣) が保護され、サブキャンプの目印になっている場所もありました。

4 つのタウンから構成され、合計 18 のサブキャンプがあり、1 つのサブキャンプには 20 もの異なった国が寝食を共に生活をしていましたので、毎晩のように交流夕食会を開いていました。

今回のテーマはシンプルスカウティングで、最初のエコロジー型ジャンボリーでもありました。地球を健康的に住みよい場所にして、より良き世界を作る為に、誰でも何かしらの事はできます。食材の配給は一切なく、無駄をなくす為に食事の計画をたて、地元で生産された商品を必要な量だけタウンにあるフードショップで購入しました。勿論、専用のエコバックを使用して。

また、調理は安全で地球に優しいガス調理器具を使用しましたが、何回でも補充が可能でした。廃棄物の処理は、決められた 7 項目の容器に分別しなければならなかったもので、最後まで戸惑うスカウトが続出してました。

5 つの異なるモジュールアクティビティ (活動) は 10 時から 15 時まで行われ、すべての参加をするためには時間を有意義に使い、行動しなければならないと痛切に思いました。

世界中のスカウトに出会い、切磋琢磨し合い、友情を作り上げる事によりジャンボリーアワードを達成する機会を得ることもできました。

より良き世界を作るために、最も重要な問題は何か、より良い生活を提供するために、何ができるか、どんな人権を持っているか、あなたにとって何が一番大切なものかなどのテーマが多々あり難易度が非常に高く、理解を求められているスカウト達は、四苦八苦のようでした。

今後の WS J は世界の祭典や交流の場だけではなく、世界を変えていくような究極のチャレンジをしていかなければならないと感じました。そして平和のメッセンジャーとなることができるようにとも・・・。

第 22 回 WS J 参加にあたりまして多くの皆様のご支援、ご声援を頂戴いたしました。厚くお礼申し上げます。

第 23 回 WS J は 2015 年山口県のきらら浜で開催されます。テーマは「和」です。

東京港第1団育成会 2011年度一般会員名簿

2011年8月31日現在(五十音順)

| 氏名 | 氏名 | 氏名 | 氏名 | 氏名 |
|--------|--------|---------|--------|--------|
| 青木 義明 | 飯田 誠子 | 五十嵐 富美江 | 石井 一也 | 石井 健一 |
| 石井 豊子 | 石田 隆一 | 五十野 和男 | 井上 大成 | 大内 真人 |
| 大木 奈津枝 | 大木 文男 | 大胡 晋一 | 大槻 敬太郎 | 大槻 将嗣 |
| 岡田 茂 | 落合 光治 | 可知 清和 | 加藤 祐二 | 加藤 美江 |
| 金森 勝芳 | 神谷 之和 | 神谷 和子 | 菊田 方晴 | 城所 繁子 |
| 北原 陽介 | 日下部 英一 | 久野 陽子 | 倉持 雅人 | 小崎 忠雄 |
| 小松 正太郎 | 小峰 カノ | 小峰 幹央 | 小宮 忠紀 | 斉藤 圭子 |
| 澤田 明秀 | 佐藤 馮 | 渋谷 太一 | 渋谷 千枝子 | 渋谷 司 |
| 志水 功 | 下河辺 元春 | 進藤 誉久 | 進藤 典子 | 杉原 正 |
| 杉原 直明 | 高嶋 ひろ子 | 高玉 大 | 高橋 準一 | 高橋 弘長 |
| 田中 新二 | 谷本 剛基 | 谷本 祐子 | 筒井 一雅 | 友常 明子 |
| 内藤 達樹 | 内藤 裕樹 | 内藤 正樹 | 中田 豊 | 西木 久美子 |
| 長谷川 幸男 | 針替 茂人 | 半田 貴久 | 藤井 朋子 | 古江 正 |
| 古矢 紘一 | 増田 光春 | 増山 邦雄 | 増山 孝子 | 御堀 直嗣 |
| 御堀 英子 | 村田 守昭 | 毛 受久美子 | 柳 健一 | 湯浅 健夫 |
| 横山 登 | 渡辺 澄 | 渡辺 邦子 | 渡辺 博 | 以上 79名 |

合計金額 393,000円(賛助金を含む)

《2011年度育成会員(一般会員)としてのご協力》

2011年度に育成会員(一般会員)としてのご協力をお願いいたしましたところ、8月31日までに上記79名の方々よりご支援をいただきました。ご協力に厚くお礼申し上げます。

なお、育成会費に加えて賛助金を頂戴いたしました方々には重ねて心より感謝申し上げます。

団委員長 杉原 正